

平成26年2月12日(水)

教育委員協議会資料

- 資料1 前期実施計画(案)の策定に向けた たたき台
(定時制夜間部及び多部制単位制夜間部、通信制)
- 資料2 高知南中学校・高等学校保護者会における意見(抜粋)
- 資料3 総務委員会における意見(抜粋)
- 資料4 高知南中学校・高知南高等学校と高知西高等学校(併設中学校)
の統合の進め方について
- 資料5 高知南中学校・高等学校の生徒が安心して学べる充実した教育環
境づくり(案)
- 資料6 県立高等学校再編振興計画の策定について

前期実施計画（案）の策定に向けた たたき台（定時制夜間部及び多部制単位制夜間部、通信制）

<夜間部 入学者数及び在籍生徒数（5月1日現在）の状況>

入学定員は全ての学校で40人。高知工は各科とも40人。

地域名	学校名	学科	H15		H22	H23	H24	H25	H25 在籍生徒数				
			在籍生徒数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	入学者数	1年	2年	3年	4年	計
東部	室戸高校	普通科	43	8	3	7	4	4	4	3	5	4	16
	中芸高校	普通科	48	8	8	6	1	2	2	2	3	6	13
	安芸高校	普通科	25	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中部	山田高校	普通科	45	12	15	18	8	11	12	10	14	8	44
	高知東工業高校	機械科	59	15	17	9	9	9	9	8	8	17	42
	高知工業高校	機械科	66	15	14	13	4	10	11	5	10	15	41
		電気科	49	8	8	4	8	6	6	8	6	10	30
		土木科	61	5	8	3	5	5	4	4	3	7	18
		建築科	83	9	6	6	5	10	9	5	12	13	39
	高知北高校	普通科	159	40	40	40	39	39	38	34	25	40	137
高岡高校	普通科	40	13	9	7	1	6	7	6	7	1	21	
高吾	佐川高校	普通科	32	5	5	6	5	6	7	8	4	5	24
	須崎高校	普通科	32	8	10	7	6	6	11	8	10	7	36
	窪川高校	普通科	35	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
幡多	大方高校	普通科	-	-	9	3	8	4	8	8	6	5	27
	中村高校	普通科	49	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	宿毛高校	普通科	61	14	9	13	12	9	9	14	11	8	42
	清水高校	普通科	45	14	3	1	6	5	5	7	2	6	20
計			932	189	164	143	121	132	142	130	126	152	550

<通信制 在籍生徒数（5月1日現在）の状況>入学定員は高知北200人、大方100人。

地域名	学校名	学科	H15	H24	H25
			在籍生徒数	在籍生徒数	在籍生徒数
中部	高知北高校	普通科	677	683	545
幡多	大方高校	普通科	-	90	88
	中村高校	普通科	143	-	-
計			820	773	633

【検討案】

- ・ 定時制夜間部及び多部制単位制夜間部の12校、通信制の2校については、働きながら学ぶ生徒や学び直しなどの様々な学習歴の生徒に、柔軟に対応するとともに、進学にも対応できる学習指導や進路指導の充実を図り学校の維持に努める。
- ・ 定時制・通信制教育の振興として、通信制と定時制の併修の在り方の検討や、ICTを活用した講座の研究を行うなど教育方法の充実を図る。
- ・ 生徒一人一人に対応した支援ができる学校であるという観点から様々な学びを保障するため学校の最低規模として「学校全体の生徒数を20人以上」とする。

基本的な考え方

- ・ 定時制は、働きながら学ぶことや学び直しなどの様々な学習歴の生徒に柔軟に対応するため、各地域での定時制課程の維持に努める。ただし、生徒数の減少に伴い統廃合を検討する場合は、学校の役割や地域の実態、学科の内容、通学手段なども考慮した配置を検討する。また、不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害等のある生徒など多様な学習ニーズにも対応しており、更に、大学等への進学希望者も増えていることから、進学希望にも対応できる、きめ細やかな学習指導や進路指導の充実を図る。
- ・ 多部制単位制は、異なる学年の生徒や昼間部と夜間部の生徒が同じ講座を受講することができるなどの多部制単位制の特色を活かした取組を更に充実し、その内容を中学生や保護者などに積極的に広報していく。また、生徒数の減少によって多部制の機能を十分に果たせない状況になった場合は、その在り方について見直しを検討する。
- ・ 通信制は、定時制と同様に、学びのセーフティネット的な役割と幅広い年齢層への対応や地域の生涯学習を担う場としての役割がある。このため、通信制は生徒一人一人の学習スタイルに応じた学びを提供できる課程と位置付け、ICTを活用した講座の研究を行うなど教育方法の充実を図る。また、現在の中央部と西部の2校の配置を維持するとともに、東部地域の生徒のニーズに対応するために通信制と定時制の併修の在り方を検討する。

○定時制（夜間）〔多部制単位制（夜間）を含む〕の最低規模

- ・ 定時制の課程（夜間）は、生徒一人一人に対応した支援ができる学校であるという観点から様々な学びを保障するため「1学年1学級10人程度以上」から「学校全体の生徒数を20人以上」に緩和し学校の維持に努める。

高知南中学校・高等学校保護者会における意見（抜粋）

1 たたき台の示し方について

- ・ 検討委員会から平成25年2月に報告書が提出されているが、なぜ1年もたったこの時期の発表になったのか。この時期の発表で子どもたちは傷ついている。
- ・ 検討案ならなぜ複数案を出さないのか。1つの案のみなら高知南中高校の閉校になってしまう。高知南が残る案も出してもらいたい。

2 適正規模の維持等について

- ・ 高知市内校の学級数を一律に減らしていけば、適正規模である4学級以上を維持できる。或いは、現在の40名学級から30名学級に減らしていく考えもある。少人数でも良い教育をすることはできる。人数にこだわらなくてもよいのではないか。

3 なぜ高知南中高校なのかについて

- ・ 津波浸水は、高知南中高校と高知工業高校とは同じ3Mである。なぜ、高知南中高校だけ閉校なのか。
- ・ 学区撤廃で高知市に生徒が集まるようにしておいて、高知市内校を閉校するのはおかしい。

4 生徒へのケアについて

- ・ 生徒へのケアをどうしていくのか。また、示された統合の仕方では、募集停止後に後輩が入ってこない状況が何年も続くことから、生徒数が減り部活動などもできなくなり、学校の活力が失われる。統合までの間、どのような対応をするのか。
- ・ 高知南が募集停止になると、高知市南部の高知南に入学したい生徒がどうなるか心配である。

5 今後の進め方について

- ・ 中高一貫教育という特色のある高知南中・高校で、人気もある学校を、なぜ統合するのか。グローバル教育は高知南でもできるのではないか。
- ・ 統合するならば、対等な統合にしてほしい。「高知西南高校」のように校名も考えるべきである。
- ・ 地元住民からも話を聞いた方がよい。地域の経済の面でもなくなる影響は大きい。
- ・ 白紙撤回してほしい。もう一度ゼロから検討してほしい。

総務委員会における意見（抜粋）

1 たたき台の示し方について

- ・ 今回の発表により生徒とその保護者は非常に不安な気持ちになっている。なぜ、この時期に発表したのか。
- ・ 須崎高校と須崎工業高校の統合の話はある程度イメージがわく。しかし、高知南高校と高知西高校については何を統合するのか。統合のイメージがわからない。

2 適正規模の維持等について

- ・ 基本的な考え方では、適正規模を「1学年4～8学級」としたうえで、高知市は「6～8学級」の維持に努めるとしている。適正規模は、全ての学校に適用すべきである。今後10年間を見れば高知市内校は4学級以上の適正規模を維持できる。

3 なぜ高知南中高校なのかについて

- ・ 南海トラフ巨大地震の被災後に学校の早期再開が困難なのは高知工業高校も同じである。また、避難場所になった高校もすぐには再開できない。早期再開を理由に高知南中高校を統合するのはおかしいのではないか。
- ・ 津波の対策であれば、高知南中高校を別の場所に移転し存続させていく選択もあるのもっと慎重に検討しなければならない。

4 生徒へのケアについて

- ・ 傷ついている生徒たちの心のケアをしっかりとしなければならない。

5 今後の進め方等について

- ・ 高知西高校の中高一貫教育は新しい取組であると思う。併設型中高一貫教育校は設置して10数年経つが、今までの併設型中高一貫教育校の総括をしたうえで、新たな取組の導入を検討したのか。
- ・ 基本的な考え方の再編振興の取り組みで、普通科併設型中高一貫教育を東部、中部、西部で維持するとのことであるが、グローバル教育科にすると普通科の併設型中高一貫教育校を中央部で維持することにならないのではないか。
- ・ 国際バカロレアに対するニーズはあるのか。特定のニーズに応えるために公教育が担うことはおかしいことである。もう少し時間をかけて検討する必要がある。
- ・ 不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害等のある生徒にもより良い教育ができる学校が城山高校、高岡高校の2校で足りるのか。

統合までのスケジュール(高知南高校・中学校)

ポイント

課題

統合までのスケジュール(高知西高校(併設中学校))

高知南中高校の生徒と高知西中高校の生徒が、統合完了までそれぞれの学校で学ぶ。

1月27日に示したたたき台

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高2	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高1	◇	◇	◇	○	☆	□	□	募集停止	
中3	◇	◇	○	☆	□	□			
中2	◇	○	☆	□	□				
中1	○	☆	□	□	募集停止				

※ ◇はH25年度以前の入学生、○はH26年度の入学生、☆はH27年度の入学生、□はH28年度以降の入学生

◇平成30年度に中学校を募集停止、平成33年度に高校を募集停止として、統合完了は平成35年3月とする。

- ◇平成26年度、平成27年度の高知南中学校入学者は、中高それぞれの段階で3学年が揃った状態で学ぶことができる。（*）
- ◇学校としての目指す姿が異なる2校の生徒が、統合完了まで別々に学ぶことで、それぞれの集団としてのまとまりをもった教育活動ができる。
- ◇高知南中学校の生徒が卒業まで同校で学ぶことができる。

- ◆平成28、29年度の高知南中学校の入学者は、3学年が揃わない状況の中で学ぶことになる。
- ※H28年度入学生は2年間、H29年度入学生は4年間こうした状況になる。
- ※高校からの外進生についても同様の状況が生じる。

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3									
高2									□
高1								□	□
中3							□	□	□
中2						□	□	□	□
中1					□	□	□	□	□

西中（入学定員80名）で募集開始

※ ■は、現在の高知西高校と同じで外進生のみで構成されている。

高知南中学校の生徒と高知西中学校の生徒が、共に統合した高知西高校に内進する。

検討案1

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高2	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高1	◇	◇	◇	○	☆	□	□	募集停止	
中3	◇	◇	○	☆	□	□	■	■	■
中2	◇	○	☆	□	□	■	■	■	■
中1	○	☆	□	□	■	■	■	募集停止	

※ ■は入学定員60名。

西高へ内進

◇高知南中学校の募集停止を平成30年度から平成33年度に伸ばし、その入学定員を60名とする。
◇平成30年度から平成32年度に高知南中学校に入学した生徒は高知西高校へ内進する。

- ◇募集停止から統合までの期間を短くできる。
- ◇中学校と高校が同時に統合となる。
- ◇高校に入学する時点で高知南中学校と高知西中学校の生徒が共に学ぶ環境をつくる。
- ◇（*）については、たたき台と同じ。

- ◆高知南中学校で、平成30年度と31年度は、高知南高校に内進する学年と高知西高校に内進する学年が混在する。
- ◆高知西高校で平成33年度から3年間は普通科の外進生の枠が小さくなる。

※緩和措置のため普通科の定員見直し。

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
高3										□■
高2									■	■
高1								□■	□■	□■
中3							□	□	□	□
中2						□	□	□	□	□
中1					□	□	□	□	□	□

中学校（入学定員60名）で募集開始

中学校は入学定員80名

平成33年度から■南中から普通科へ、□西中からグローバル教育科へ内進。

高知南中学校の生徒と高知西中学校の生徒が、統合によって高知西中高校で学ぶ。

検討案2

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高2	◇	◇	◇	◇	◇	○	☆	□	□
高1	◇	◇	◇	○	☆	□	□	募集停止	
中3	◇	◇	○	☆	■	■	■	■	■
中2	◇	○	☆	■	■	■	■	■	■
中1	○	☆	■	■	募集停止				

※ ■は入学定員80名。

高知西中学校に統合

◇平成30年度に高知南中学校と高知西中学校を統合し、平成28年度と平成29年度に高知南中学校（入学定員80名）に入学した生徒は、高知西中学校に統合したうえで、高知西高校へ内進する。

- ◇中学校の統合までの期間を短くできる。
- ◇中学校では3学年揃った状態で統合する。
- ◇平成26、27年度に入学する生徒が高校で3学年揃った状態になるように外進生を募集する。
- ◇（*）については、たたき台と同じ。

- ◆高知南中学校で、平成28年度と29年度は、高知南高校に内進する学年と高知西中学校に移る学年が混在する。
- ◆高知西中学校で、平成30年度と31年度は、高知南中学校から統合した学年と高知西中学校で募集した学年が混在する。
- ◆高知南高校で平成31、32年度の高校入学者が外進生のみになる。

	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
高3									
高2									
高1									
中3					■	■	□	□	□
中2					■	■	□	□	□
中1					■	■	□	□	□

高知南中学校から統合

※中学校の□は西中で募集し入学定員80名。

※いずれの案についても、在校生の減少やそれに伴う課題への対応が必要になってくる。

高知南中学校・高等学校の生徒が安心して学べる充実した教育環境づくり(案)

高等学校課

速やかに以下の取組の実施に向け検討していく。

1 教育活動の充実

(1) 学力向上

- ① 生徒一人一人の進度に応じた授業を展開するために習熟度別授業の拡大(教員の加配)
- ② 教育センター研究校として指導主事と教員が連携した授業改善への取組の充実

(2) 生徒の心のケア

- ① 複数担任制の導入(中学校)
- ② スクールカウンセラーの常駐
- ③ 心の教育センターの重点支援校として定期訪問
- ④ カウンセリングマインドに関する教員研修の充実

2 学校の特色を生かした教育活動の充実

(1) 高知南中学校・高等学校が取り組んできたキャリア教育と国際理解教育の更なる充実

① キャリア教育を推進するために

- ア 就労体験などの体験活動の充実
 - ・ キャリア教育支援員の配置など
- イ 教員の指導力の向上 など
 - ・ 大学などの専門家による助言(新たな高大連携)など

② 国際理解教育を推進するために

- ・ 海外派遣研修の充実など
- ・ 留学生(大学生、大学院生)の活用など

* 魅力ある学校づくりに向けた校長裁量予算の拡大

今後、具体的な振興策については、更に、学校関係者の意見を聞きながら、高知南中学校・高等学校の教職員とともに、更に統合に向けたスケジュールに応じて必要な対策を確実に講じる。

県立高等学校再編振興計画の策定について

- 2月12日（水）「教育委員協議会」での協議
 - ・ 定時制通信制課程の再編振興について協議する。
 - ・ 高知南保護者会からの意見に対する教育委員会の考え方を確認する。
 - ・ 高知南保護者会及び県議会（総務委員委員会）からの意見を踏まえた「高知南と高知西の統合の進め方（案）」と「高知南の振興策（案）」について協議する。

- 2月18日（火）「教育委員協議会」での協議
 - ・ 現在の事務局案の修正等について協議する。

- 3月8日（土）「教育委員協議会」での協議
 - ・ 「パブリックコメント原案」（パブリックコメントを実施する再編振興計画の原案）を協議する。

- (3/10～3/12)「2月議会 総務委員会」への報告
 - ・ 3/8の教育委員協議会に示した「パブリックコメント原案」を報告する。

- 3月25日（火）「定例教育委員会」への報告
 - (・ 総務委員会の意見も踏まえた「パブリックコメント原案」について協議のうえ)
 - ・ 「パブリックコメント案」の取りまとめを行う。

- 4月～
 - ・ パブリックコメントの実施
 - ・ ブロック別での説明会の開催